

ク乗用種ヨリ遠カラントスル傾向ヲ來シツツアルニ於テ其成績ハ漸次尙低下スヘキハ明瞭ナリ其種畜的價值ハ單ニ戰術進歩ノ要求タル軍用乘馬ノ速度及負擔量ノ増加ニ應センカタメ止ムヲ得ス或種ノ一補助者トシテ用ヒラルベキモノニシテ佛國ニ於テ乗用種ノ改良ニ「アングロアラブ」ヲ創造シテ供用スルカ如キ即之ナリ本種ハ將來益々其變遷ニ伴ヒ單獨ニ改良ノ效果ヲ擧クルハ蓋不可能ニ近ク之ヲ「サラブレット」本位ヨリ觀察セハ他種ノ援助ヲ要求スルコト益々大ニ之ヲ客觀的ニセハ其威力ハ極メテ微弱ナリ產馬ノ體量ト速度ハ飼養ト訓練ニ依リ發展ノ餘地尠ナカラサルニ於テ特ニ然ルヘク今日日本邦馬政局ノ英種ノ供用ヲ漸次局限セントシツツアルモ宜ナリト謂フヘシ

馬匹ノ價值ハ外質ニアラスシテ能力ニアリ然ルニ生産家中往々一部論者ノ偏私ニ迷ヒ或ハ體質ノ美ニ眩惑シ「サラブレット」萬能者稀ナラスト聞ク國ニ馬群乏シク且其能力劣等ナル馬種ヲ有スル國軍ノ一騎兵將校トシテ痛恨ノ至リニ堪ヘス敢テ此稿ヲ草スル所以ナリ

終リニ臨ミ大正八年六月騎兵學校ニ於テ各種地形ヲ含ム約八十里ノ行路ヲ一時間約二里ノ速度ヲ以テ騎乗セシメ後約二十六里ヲ一時間ノ平均速度三里強

ヲ以テ蹈破セシメテ本邦產各種血系馬ノ能力ヲ試驗セル結果ヲ觀ルニ

一「アラブ」系馬ノ一般成績ハ比較的老齡馬多カリシヲ以テ充分ナル成績ヲ擧ケ得サシリト雖モ相當體尺ヲ有セシモノハ何レモ故障尠ク餘力旺盛ニシテ優

秀ナル成績ヲ現セリ

二「サラブレット」系馬ハ馬格ノ良好ナルニ比シ能力ノ稍々之ニ伴ハサリシノ觀アリ特ニ餘力検査ニ於テ速度ノ他輕種ニ及ハサリシハ疲勞感作ノ比較的著シカリシニハアラサルヤ

三「アングロアラブ」系馬ハ馬格他種ニ比シ敢テ良好ニアラサリシモ能力ハ一般ニ優秀ニシテ成績ハ試驗各血種馬中最上位ニアリ

本騎乗ノ成績ニヨリ直ニ各血種系馬ノ能力ニ就キ判斷ヲ下スハ頗ル過早ノ感アリト雖モ亦何物カヲ捕捉シ得ヘク前記諸項ト關聯シ讀者參考ノ資料タルヲ得ハ幸甚ナリ

「アングロアラブ」ノ四肢果シテ纖弱ナリヤ

往年盛ニ我國ニ輸入セラレタル佛國「アングロアラブ」種ハ今期大戰ノ機動間即チ佛軍ノ國境ヨリマルヌニ至ル悲惨ノ退却ニ際シ非凡ノ能力ヲ發揮シ輓馬ニ於ケル「ブルトン」種ト共ニ野戰ノ要求ニ應スヘキ理想ノ騎兵乘馬ナリト迄ニ稱讚セラタル良種ナルニ似ヌ本邦過去ニ於ケル此種ノ種畜的成績ハ豫期ノ如クナラス數年來全ク其ノ輸入ヲ絶ツニ至レリ今其理由ヲ見聞スルニ產駒ノ體型稍々緊縮ニ過キテ且ツ高ク四肢殊ニ膝直下ニ於ケル腿ノ發育完カラス所謂細管ノ馬多ク輸入馬各個體モ亦種畜トシテ満足ナル四肢ヲ有セサルニ在ルモノ、如シ又同種ニ對スル此世評ノ只ニ我國ノミニ止ラサルハ伊太利騎兵少佐「アドニー」氏ノ同國購買佛國「アングアラブ」種ノ瞥見所感ニ「概シテ優秀ナルモ四肢稍々纖弱ノ傾アルハ遺憾ナリ」トアルニ見ルヲ得ヘク要スルニ此種ノ四肢ハ視察ニ於テ他良種ニ劣ルハ爭フ可ラサル事實ナリト云フヲ得ヘシ然レトモ古來持久力馬トシテ名聲ヲ馳セタル實例ニ乏シカラス吾人モ長途騎乘其他ニ於テ我國生産同種系馬ノ外形並ニ四肢共ニ彼レニ優ル「キドラン」乃至「アラブレツ

ト」系ヨリ悍威常ニ旺盛ニシテ輕快持久ニ富ムモノ多キヲ經驗シ疑問ト爲ス所多ク獨逸ノ體尺一米六〇以上ニ於テ管圍〇・二二以上ヲ具備スヘシト規定シ先輩ヨリ管圍ノ太キヲ以テ強馬ノ象徴ト聞キタルモ快速持久ノ動物ノ常ニ纖弱絲ノ如キ四肢ヲ有スルト對稱シ果シテ其眞理ナルヘキヤヲ疑ヒ或ハ又迅速ナル速度ヲ爲スヘキ馬匹ノ四肢ハ常ニ其緩ナルモノニ比シ地板ノ衝動ヲ受クルコト至大ナルヲ以テ乘馬ノ四肢ハ成可ク太ク且ツ堅實ナルヘシト自問シ適確ナル自答ニ苦ミシカ數年前南佛蘭西一馬產協會ノ一員ガ該國馬政局軍馬補充部陸軍省及獸醫學校其他外國將校ノ援助ニ依リ「アングアラブ」ノ四肢ニ就テ行ヘル統計的研究ハ其解決ヲ與フルニ近ク且ツ同種持久ノ依テ來ル所以ヲ證明スルモノニシテ氏ハ四肢ノ容積ハ體尺トノ比若クハ單ニ數量ノ多寡ニ依リ其適不適ヲ判定スヘキモノニ非スシテ四肢ノ負擔スヘキ體重トノ比ニ依テナスヘキモノナルヘシトノ見解ヨリ體重一〇〇吉羅瓦ニ對スル管骨周尺ノ比ヲ算出シ其最モ大ナルモノヲ以テ最良トナシ「アングロアラブ」ノ國內産各馬種ハ勿論中歐諸國各馬種中ニ比敵スヘキモノ無キ該數ヲ得テ本種ノ四肢ハ決シテ纖弱ナラサルノミカ反テ最モ太シト斷言シ萬丈ノ氣焰ヲ擧ケタル諸統計表中ヨ

「アングロアラブ」ノ四肢果シテ纖弱ナリヤ

馬術及馬事



リ拔萃シテ其消息ヲ親フニ足ルヘク作製セルモノ即チ左記三表ナリ馬匹選定ニ當リ一顧ノ價值アル意見方法ニシテ又「アングロアラブ」種ノ愛好者並ニ研究者ノ參考ト成ルニ足ルヘキモノナルヲ想ヒ敢テ茲ニ載ス
 追テ左記諸表中Aハ腕豆骨ノ下方一〇珊ニ於テBハ膝直下ニ於テノ管圍ニシテ騎兵部隊ハ其一小隊ヲ砲兵ハ一中隊ヲ指定シ種馬ハ種馬所繫留同種全部ヲ測定シテ得タル其平均管圍率數ヲ掲ケタルモノナリ

A 第一表

各馬種體重一〇〇吉瓦對管圍率序列表

序列	所屬部隊	馬種	體重(吉瓦)	管圍實尺	體重一〇〇吉瓦對管圍率	體重五〇吉瓦ニ對スル管圍率第數
1	輕騎兵第九聯隊	アングロアラブ	三七四〇〇	〇・一九二〇	五・一五〇	〇・二五七〇〇
2	標騎兵第十聯隊	右	三七二〇〇	〇・一九九〇	五・一〇〇	〇・二五五〇〇
3	輜重第十七大隊	驃馬	四三三〇〇	〇・二二七〇	四・九八〇	〇・二四九七〇
4	標騎兵第十四聯隊	アングロアラブ	三七一〇〇	〇・一九八〇	四・九〇〇	〇・二四四〇〇
5	龍騎兵第十聯隊	右	四一六〇〇	〇・二〇七五	四・八六〇	〇・二四二〇〇
6	輜重第十七大隊	右	四三八〇〇	〇・二〇二〇	四・七六九	〇・二三八八〇
7	蕃殖北馬	右	四四九〇〇	〇・二二二五	四・六九〇	〇・二三三三〇
8	補充北馬	右	三七七〇〇	〇・一九三〇	四・六五〇	〇・二三三三〇
9	西班牙國龍騎兵	アングラールズ	四三六〇〇	〇・一九八〇	四・六四〇	〇・二三三三〇
10	龍騎兵第二聯隊	マコンネー	四二七〇〇	〇・二〇〇〇	四・六三〇	〇・二三三三〇
11	補充第二聯隊	半血重アングラ系	四〇二〇〇	〇・一八六〇	四・六二〇	〇・二三三三〇
12	龍騎兵第二十二聯隊	ノルマン	四一〇〇〇	〇・一九七五	四・五九〇	〇・二三三三〇
13	輜重兵第十七大隊	ノルマン	四〇八〇〇	〇・一九九五	四・五五三	〇・二三三三〇
14	龍騎兵用育成馬	アングロアラブ	四四八〇〇	〇・二〇一〇	四・五三〇	〇・二三三三〇
15	ポ一馬車會社	半血重アングラ系	四三三六〇〇	〇・一九七〇	四・五一一	〇・二三三三〇
16	胸甲騎兵第二聯隊	ノルマン	四九一〇〇〇	〇・二二七〇	四・四二〇	〇・二三三三〇

「アングロアラブ」ノ四肢ハ果シテ纖弱ナリヤ

列序	所屬部隊	馬種(產地)	負擔量	體量	管圍實尺	重量一〇吉瓦對管圍率
28	砲兵第十八聯隊	ノルマン	四三〇〇〇	〇'11012	四三〇	〇'11240
27	砲兵中補充馬	ノルマン	四三〇〇〇	〇'12100	四三〇	〇'11200
26	ポ1馬車會社	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'12000	四三〇	〇'11200
25	共和近衛騎兵	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
24	伊國馬	アンダロウ	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
23	砲兵第二十三聯隊	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
22	胸甲騎兵第十聯隊	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
21	種馬	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
20	憲兵	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
19	西班牙國種馬	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
18	補充部	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200
17	補充部	ノルマン	四〇〇〇〇	〇'10200	四三〇	〇'11200

馬術及馬事

本表ニ依リ判斷セラレタル事項ノ要領左ノ如シ
 一、管圍實尺第二十一位ノ「アンダロウ」系種ハ體重一〇〇吉瓦ニ對スル時ノ管圍尺ハ反テ第一位ニシテ負擔量ニ對シ最モ太キ管圍實尺ハ右表各種中最強ノ四肢ヲ有スルモノナリ
 二、體重ニ對スル管圍容積ハ駝歩馬ヲ第一トシ次ニ速歩系馬常歩系馬ハ實尺最モ大ナルニ係ラス最下位ニアリ即チ管圍實尺〇米二七〇〇ノ「プロネ」種ハ〇米一九二八〇ノ「アンダロウ」ニ劣ルコト〇.25700-0.1350=0.1220ナリ
 三、「アンダロウ」種中ニ在リテモ重型ノモノハ輕型ノモノヨリ管圍實尺大ナルニ係ラス負擔量ニ對シテハ反テ小ナルコト

A 第二表

戰時武裝ニ於ケル重量一〇〇吉瓦對管圍率序列表

列序	所屬部隊	馬種(產地)	負擔量	體量	管圍實尺	重量一〇吉瓦對管圍率
13	輕騎兵第九聯隊	アンダロウ(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
12	驃騎第十聯隊	右 同	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
11	輜重第十七大隊	驃馬(アルル)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
10	龍騎兵第十聯隊	右 同(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
9	驃騎第十四聯隊	右 同(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
8	蕃殖牝馬	右 同(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
7	輜重第十七大隊	アンダロウ(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
6	龍騎第二聯隊	マコンネー(マコン)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
5	西班牙龍騎兵第十聯隊	アンダロウ(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
4	輜重第十七大隊	ノルマン、ワルデヤン	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
3	龍騎第二十二聯隊	ノルマン、ワルデヤン	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
2	龍騎用育成馬	ノルマン(カ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三
1	補充部	アンダロウ(タルブ)	二二五〇〇	四八〇〇〇	〇'12200	三、九三三

「アンダロウ」ノ四肢ハ果シテ纖弱ナリヤ

各馬種體重一〇〇吉瓦對管圍率序列表

序列	所屬部隊	馬種	體重	管圍實尺	管圍率
1	輕騎兵第九聯隊	アングロアラブ	五七五、六五	〇、三三二	六、二〇
2	龍騎兵第十聯隊	アングロアラブ	四六七、三	〇、二二五	五、二
3	アルゼリ砲兵隊	アラブ及バルブ	五八七、	〇、一九九	五、一
4	輜重第十七大隊	シヤラン、アンデヤン、アラブ及驛	四七五、	〇、二五六	四、九
5	龍騎兵第二聯隊	アラブ及バルブ	五三二、	〇、二二二	四、二
6	アルゼリ種馬所	アラブ及バルブ	四〇九、	〇、一九九	四、八
7	砲兵第十八聯隊	ノルマン、アンデヤン	四九八、	〇、二二六	四、六
8	アルゼリ種馬所	アラブ	四一四、	〇、一九九	四、六
9	右同砲兵隊	アラブ	四三二、	〇、一九九	四、八
10	右同種馬所	バシラ、シヤラン、ネ	四四六、	〇、二〇一	四、二
11	胸甲騎兵第十聯隊	ノルマン、シヤラン、ネ	四〇六、	〇、二二六	四、二
12	砲兵第二十二聯隊	ノルマン、アンデヤン	四九〇、	〇、二〇三	四、一
13	西班牙種馬所	アラブ	四〇〇、	〇、二〇〇	四、三

「アングロアラブ」ノ四肢ハ果シテ纖弱ナリヤ

B 第一表

馬術及馬事

序列	所屬部隊	馬種	體重	管圍實尺	管圍率
14	ボン馬車會社	アングロアラブ	一、六、七、四〇	四、九、七、四	三、五、二〇
15	補充部育成馬(輕)	アングロアラブ	一、一、〇、〇	三、七、七、〇	三、四、〇〇
16	胸甲騎兵第二聯隊	(サンロー、アラレン)	一、一、一、三	四、二、一、〇	〇、一、九、五〇
17	砲兵第十八聯隊	(サンロー、アラレン)	一、三、〇、〇	四、三、一、〇	〇、二、一、〇〇
18	龍騎兵用中庸補充馬	アラブ	一、二、六、四	四、三、〇、〇	〇、一、一、〇〇
19	共和胸甲騎兵	ノルマン(各産地馬)	一、六、七、六〇	四、四、〇、〇	〇、二、〇、七〇
20	伊國砲兵第十九聯隊	ノルマン、塊、國産馬	一、三、〇、九、五	四、四、〇、〇	〇、二、〇、七〇
21	砲兵第二十三聯隊	(サンロー、アンデヤン)	一、三、〇、二、五	四、七、〇、〇	〇、一、九、〇〇
22	胸甲騎兵第十聯隊	(ノルマン、マコン、ネ)	一、三、一、〇、〇	四、七、〇、〇	〇、一、九、〇〇
23	憲兵隊	普通使用馬	一、三、一、〇、〇	四、七、〇、〇	〇、一、九、〇〇

本表ニ依リ判断セラレタル事項ノ要領左ノ如シ
 一、戦時武装ノ騎手ヲ負擔セル場合ニ於テモ「アングロアラブ」ノ四肢ハ其ノ重量ニ對シ最モ大ナル容積ヲ有スルコト

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	
右	右	右	右	右	右	右	獨逸種馬	右	西班牙種馬	獨逸種馬	馬術及馬事
同	同	同	同	同	同	同	所	同	所	所	
獨逸種	英重種	佛國產重體	ヲルデンブルク種	ハンノーバー種	東普手血	英純血	所	同	西班牙馬、英純血	純血アラブ	
七〇六	七三六	七二五	六八七	六三四	五八七	五五九	五二二	五〇〇	五〇〇	四七六	
〇、三三九	〇、三六〇	〇、三六八	〇、三九五	〇、三九三	〇、四一六	〇、四三〇	〇、四四三	〇、四四三	〇、四四三	〇、四六六	
三、三三	三、四四	三、四七	六、五二	三、六三	三、六九	三、七九	三、七九	四、〇九	四、一七	四、一三	

本表ニ依リ判斷セラレタル事項ノ要領左ノ如シ
 一、體重ニ對スル「アングロアラブ」種四肢ノ容積ハ重種ハ勿論「アラブ」及「サラブレット」ニモ優ルコト數等ナリ
 二、西歐諸國中體型ニ即チ目視並ニ實測ニ最モ重キヲ馬匹選定ノ要旨トナス獨逸帝國種牡馬ノ四肢ハ管圍ノ實尺極メテ大ナルモ負擔量ニ對シテハ最小ニシテハ最小ニシテ之ヲ換言スレハ最モ纖弱ノ四肢ヲ有スルコト

「アングロノルマン」種ニ就テ

一 アングロノルマン種ノ血液

レルマンデー地方ニ「ノルマン」人種ノ移住ト共ニ現ハレタル北歐馬カ十字軍ニ依テ輸入セラレタル「アラブ」及ビ西班牙馬コルベール氏ノ牧馬令ト共ニ來レル丁抹英國西班牙及「バルブ」各種種牡馬ノ種々ナル配合ニ依リテ成リタルモノ即チ「ノルマン」馬ニシテ其ノ「アングロノルマン」ト化シタルハ第十八世紀以後主トシテ此地方ニ英純血並ニ其半血ノ供用セラレタルニ依ルモノニシテ其行程ハ之レヲ四期ニ區分スルコトヲ得ヘシ

第一期 自千七百七十五年至千八百十六年

十八世紀末佛國時ノ主馬頭ラムベスク氏ハ舊來ノ同國馬産ノ方針ニ對シ大ニ改刪スル所アリシカ千七百七十五年ノ頃ヨリ「ノルマンデー」ニ對シ「コルベール」以來供用シ來リタル種々ナル種類ヲ取捨選擇シ主トシテ英純血及其半血當時ノ繪畫ニ依リ判斷スルニ「ロードスター」ナルモノノ如シヲ以テ同地ノ血液ヲ統一セリ之レ即チ現「アングロノルマン」種ヲ創造セル濫觴ナリ

「アングロノルマン」種ニ就テ

馬術及馬事

千八百年以降ニ於テハアラブ種亦若干注入セラレ内 BACHA GALLIOLI ノ二頭成績最モ良好ニシテ主トシテオルヌ縣ニ供用セリ

第二期 自千八百十六年至千八百四十年

英國トノ通商ハ革命ニ依テ圓滑ヲ缺キアリシモ千八百十四年ノ王政復古ニ依リ更ニ殷賑トナリ多數英純血ノ輸入從テ起リノルマンデー地方又未ク曾テ視サル同血ノ流入ヲ受ケ其産馬ハ略ホ「アングロノルマン」的血液ヲ保ツニ至レリ當時ノ輸入馬ニハ良駿多ク EASTHAN, Y. BATTLEER ノ二頭特ニ拔群ニシテ前者ハ英純血後者ハ DARLEY ARABIAN ノ曾孫タル一半血牝ノ母ト英純血種牡馬トノ間ニ生レタル血液多量ノ半血馬ナリキ「アングロノルマン」血統書中ノ王者タル「USCHIA」ハ其娘牝 IMPERIEUSE ヨリ生レ NOBMAND 及 CHERBOUBO ハ其仔牡 XERES ノ直系ナリ

○附記名馬 FUSCHIA ハ三百八十九頭ノ登録速歩馬ヲ生シ千九百十三年迄ニ佛國競馬場裡ニ出走セル速歩馬中一〇〇〇〇餘頭ハ直接間接ニ其血液ヲ受ケ又同年迄ニ其血液ヲ受ケ種馬トシテ供用セラレタルモノ三千五百六十二頭ニ及ヘリ

第三期 自千八百四十年至千八百六十年

速歩系馬ノ血液ヲ直接注入シテ速度ノ増進ヲ圖リタル特性期ニシテ「ノルホーク」牝馬ニ英純血ヲ配シテ成レル所謂「ノルホーク」速歩馬ヲ輸入供用セリ内最モ有名ナリシモノヲ THE BLACK NORFOLK PHENOMENON トシ速歩系ノ名種馬 NIGER ハ此血統ニ出ツ

之ヲ要スルニ「ノルマンデー」馬匹ハ種牡馬ニ依リ其血液ヲ清淨シ體型又整頓シテ一馬種即チ「アングロノルマン」馬トシテ速歩發達ノ基礎成ルニ至レリ而シテ今本第三期迄ニ「ノルマンデー」地方ニ輸入セラレタル馬種並ニ名種牡馬ノ名稱及其血液ヲ受ケタル現「アングロノルマン」種ノ良駿ヲ更ニ摘記スルハ左ノ如シ

- 一 亞刺比亞純血
 - 1 BACHA
 - 2 GALLIOLI

- 一 英純血
 - 1 EASTHAN
 - 2 NAPOLEON
 - 3 THE HEIR OF LIDNE(PHEUNノ父)

「アングロノルマン」種ニ就テ

三、英半血種 YRATTIER

{ CONQUERANT—FUSCHIA
(A, A) (A, A)
NORMAND—CHERBOURG
(A, A) (A, A)

四、ノルホーク速歩馬 THE BLACK NORFOLK PHENOMENON—NIGER (A, A)

第四期 千八百六十年以降現時

所謂セレクション期ニシテ速歩馬ノ爲メ英純血牝ヲ軍用乘馬ノタメ英純牡ヲ使用シ蕃殖ヲ行ヒアルモノ尠シトセサルモ之等ハ皆特種目的ノ下ニ行フモノニシテ一般ハ相互蕃殖ニ依リ體型能力ノ發達ヲ遂ケツツアリコルナヴァン氏ハ述ヘ

八十年間ノ交叉ト之レニ次ク相互ノ配合ニ依リ「アングロノハマ」ハ固定ノ一種トナレリ

即チノルマンデー地方馬ハ四種ノ外血ニ依リ約一世紀ノ後チ「アングロノルマン」ナル一種ヲ形成セリ然レトモ廣大ナル同地方ノ風土氣候人情ノ全ク同一ナラサルハ自然ノ勢ナルヲ以テ本種モ亦其生地ノ影響ヲ受ケ仔細ニ觀察スル時各地ノ特種發見ハ蓋シ困難ニ非スシテ大同小異ノ三種ナル速歩系馬豪奢用駕

馬系(カロツシエ)及輕軌系半血ノルマンニ尙ホ種類ト視ルニ未タ十分ナラサルモ目下盛ニ生産シツツアル以上三種ノ牝馬ニ英純血種馬牝ノ直接配合ニ依テ成セル軍用重乘馬系馬ヲ加フル時更ニ一種ヲ加ヘテ四種ノ別アルコト汎ク人ノ知ル處ナリ

一、ノルマン各種ノ原地ニ於ケル趨勢

一、速歩系馬(トロトール)

一時佛國全土ノ種馬所ニ半血蕃殖用種牡馬トシテ雄飛スル所アリシモ産駒ノ體型成績面白カラサルノミナラス多クハ駈歩ニ巧ナラス軍事界ノ嫌フ所トナリ從テ民間生産家ノ希望尠キ爲メ漸次淘汰ノ非運ニ會ヒ同馬ノ生産地オルヌ縣ノ爲メ「パン」種馬所ハ尙ホ多數繋留シアルモ他ハ極メテ小數若クハ皆無トナリ政府ノ各年同種購買數又大ニ減少セリ「ノルマン」半血主産地サンロー種馬所長ノ如キハ速歩系馬ハ「アングロノルマン」ニ對スル毒血ナリト罵倒セリ

二、豪奢用駕馬系馬(カロツシエ)奥羽種馬牧場蕃殖牝馬及秋田種馬所繋留種馬中ニ多數見ル所ノモノニシテ自働車發達ノ結果全ク其生産ヲ絶タントシツツアルノ景況ナリ只タ同種牝馬ハ英純血ト配シ胸甲騎兵用乘馬ヲ繁殖スルニ便

「アングロノルマン」種ニ就テ

馬術及馬事

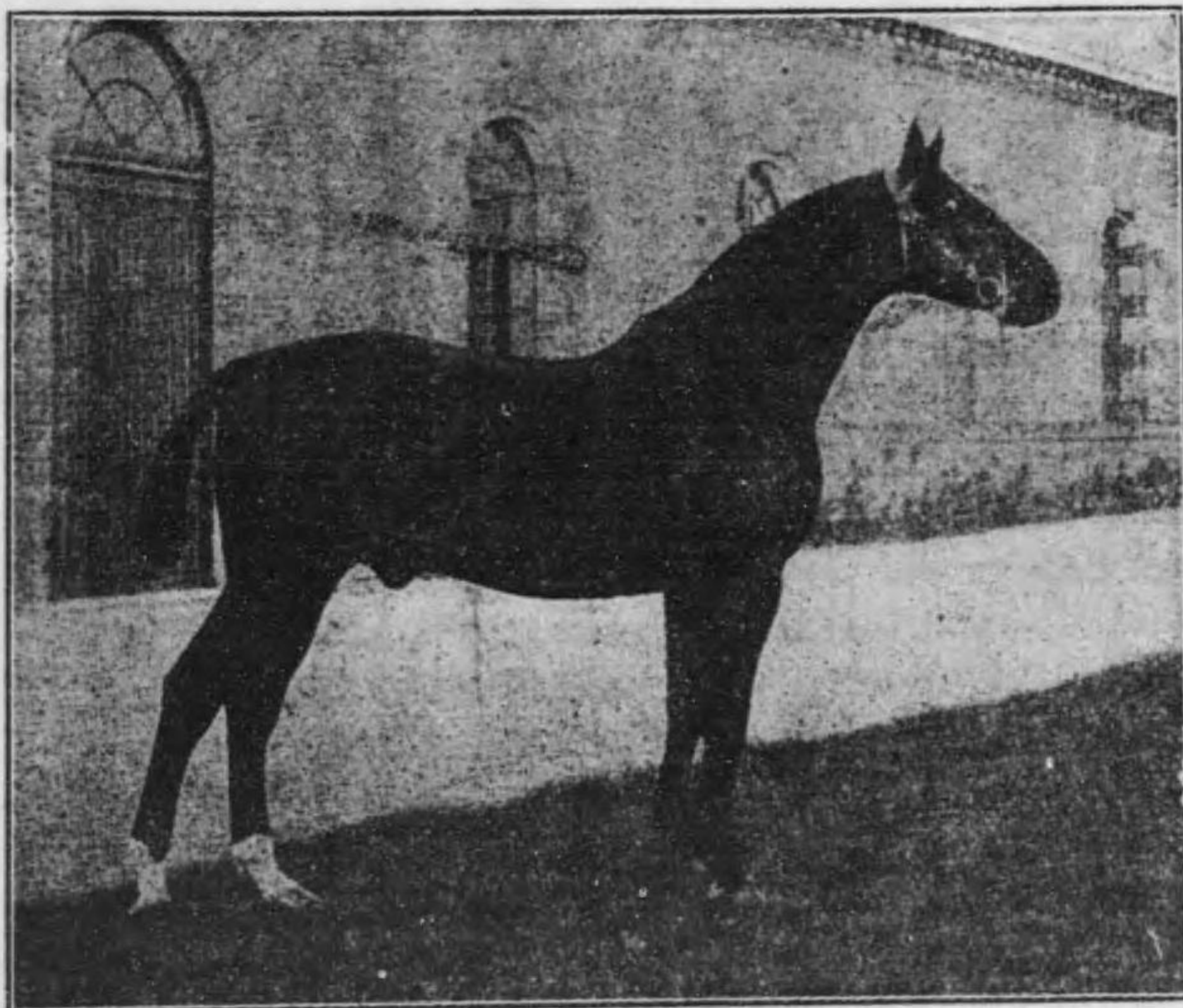
ナルヲ以テ政府ハ尙ホ之レヲカルバドース及マンシユノ一部ニ於テ獎勵シツ

ツアリ

三、輕軌系馬(半血ノルマン)

近時盛ニ其生産ヲ獎勵シマンシユ縣ノ如キハ全ク之レニ依リテ統一セントスルモノノ如ク其種馬所サ
ンローノ如キ各年同系種牡馬ノ補充増加シ視察當時(千九百十六年十一月)已ニ一厩舎ノ如キ全部此種ヲ
繋留シテ所長ハ其偉觀ヲ誇リ當所數百ノ種牡馬ハ久シカラスシテ皆
此種ニ變スヘシト豪語シ且其能力及體型ノ現代式ナルヲ述ヘ英人ノ
所謂コツブ型ヲ以テ理想トセリ且

馬 牡 血 半「ン マ ル ノ」型「ブルコ」



曰ク重乘馬ヲ得ント欲セハ英純血ヲ配シテカロツシエー型馬ト何等異ル點ナ

キノミカ反テ配合容易ナルノ利アリト説ケリ

四、重乘馬系馬

佛國軍馬獎勵協會ノ保護獎勵ニ依リ相當ノ進歩發達ヲ遂ケツツアルモ悍威稍々足ラサルト警甲ノ發育兎角面白カラス且ツ駢歩ノ流暢ヲ缺クノ謗アルヲ免
レスシテ「ワンデヤン」平血ニ壓迫サルルノ傾アリ

三、ノルマンデー各產地ノ特性

ノルマンデーハセーヌ、アンヘリユール、ウール、カルバドース、オルヌ、マンシユ五縣ノ總稱ナルモ内馬産ニ名高キハカルバドース以下三縣ニシテ馬産上ニ於ケル
ルノルマンデーハ此等三縣ヲ云フモノトス

一、オルヌ縣

代表的產地ハメルロール及アラレソン平地ニシテ其特性ト見ルヘキモノヲ述
フレハ左ノ如シ

(A)メルロール

一、ノルマンデー一般產地ハ主トシテ平坦ナルモ此地ハ小起伏地ニシテ
通氣極メテ良好ニ且ツ放牧地ノ多クハ丘陵ニ依リ北風ヲ防ク

「アングロノルマン」種ニ就テ

馬術及馬事

- 二、人工牧草地敢テ多カラサルモ短尺多肉ノ良草ニ富ミ水ハ清淨ニシテ石灰及鐵性分多シ
- 三、「アラブ」血液ノ最モ多量ニ分布セル地方ニシテ産馬一般ニ悍性强ク特久力ニ富ミ往年「フヒツシヤ」號ノ血液モ亦多量ニ流入シ速歩系馬ノ主産地トシ其名聲高ク騎乗速度一吉羅一分二十九秒ノ「ナルコア」號ハ此地ノ産ナリ
- 四、産馬ノ體型輓格馬ヨリ寧ロ乗用格馬ニ近キモノノ特性ニシテ百年戰當時英軍ガ此地ニ多數ノ騎兵用馬ヲ徵發セル如キハ那邊ノ消息ヲ漏スモノナリ

(B) アランソン平地

- 一、ノルマンデーニ奇異ニモ革命當時「アングロアラブ」種ニ屬スル二頭ノ良駿此地ニ入り多年其血ヲ流セシ爲メ極メテ乗用型ニ近ク從テ速歩系馬ヲ産出ス
- 二、蕃殖牝馬ニ對スル放牧他縣ヨリモ盛ニシテ殆ント四季放牧ノ觀アリ
- 三、幼駒ノ放牧又盛ニシテ特ニ其他ノ選定ニ留意シ調教開始ノ二歳半ニ

至ル迄三回ノ放牧ヲ行フ秋田種馬所ノ「デワン」號ハ此地ノ産ニシテ其ノ生産牧場及體型ヨリ判斷スルニ蓋シ「ヒツシヤ」系ノモノナルヘシ

二、マンシユ及カルバドース縣

オルヌノ生産育成且調教地ナルニ反シカンノ平地ヲ除キ他ハ總テ生産地ニシテオルヌニ比シ産馬一般ニ重厚大身ナリ

A マンシユ縣

北ハ小身俱威ニ富ム小格輓馬ヲ産スト雖一般ハ大格雄姿ノ「カロツシエ」型ナリシカ近時「コツブ」型ニ變シツツアルハ已ニ述フルカ如シ放牧地ノ豊富ハ又此地ノ一ノ特性ニシテノルマンデー中最モ資源ニ富ムモ之レカ爲メナリ

B カルバドース縣

人工牧草地ノ極メテ多キハ他縣ト異ル處ニシテ又幼駒ヲ早齡ヨリ輕役シ且ツ地味豊饒ノ結果飼糧良好ニシテ且ツ多給スルノ慣習アリ「カロツシエ」及軍用重乘馬ヲ生産ス

C カン平地

「アングロノルマン」種ニ就テ

馬術及馬事

純然タル育成地ニテクローバー、ルーサン、ホアイトクローバー及燕麥ノ播牧草地ノ外全ク自然草地ヲ見ス育成馬ハ生草馬腹ヲ沒スル其牧草地ニ長サ十米突内外ノ麻繩ニ依リ繋留放牧セラル此法ヲ稱シテ「ピツケ」ト稱フ純放牧ハ離乳直後ノ一ケ年ニシテ十八ヶ月ヨリ速歩系馬ハ速歩ヲ輓系匹馬ハ何レモ農圃ニ於ケル輕役ニ服セシメ餘暇「ピツケ」ヲ行ヒツツ三歳ニ至リテ賣却スルヲ常トス此地ノ育成家ハ其技能ノ秀逸ナル佛國第一ト稱セラレ畜産學者サンソン氏ハ

カンノ良馬ヲ産スルハ蕃殖牝馬種馬乃至其草其水ノ一要素タルハ勿論ナルモ他ニ比ナキ此地育成家獨特ノ技能ハ最有力ナルモノナリト「アングロノルマン」ヲ如何ニ巧ミノ育成ヲ受ケ發育セルモノナルヤヲ想像シ得ルト共ニ又同種ノ育成ニハ異常ノ研究ヲ要スヘキヲ窺フニ足ル言ナリト云フヘシ

歐洲戰爭ヨリ得タル馬事上ノ教訓(大正七年春東京備行社ニ於テ講話)

戰爭ニ於ケル馬ノ用途ハ種々アリト雖乘輓馱ノ諸役何レモ行軍ヲ以テ其主任務トナササルナシ故ニ以下述ヘント欲スル事項ハ歐洲戰役ノ齎セルモノト云フモ塹壕戰ニ移レル以前機動ヲ主トセル大戰初期兩三月ニ獲タル材料ニ依リ判斷セラレタルモノニシテ今後戰局ノ發展ハ更ニ特種ノ行動ヲ要求シ新實驗ヲ與ヘテ已得ノ事項ヲ改ムル無キヤハ保シ難キト又本材料ハ主トシテ佛國及露國ヨリ蒐集セルモノナルヲ茲ニ一言シ之レヲ蕃殖、育成、管理及馬術ニ分チテ述ヘントス

一 蕃殖ニ就テ

近キ過去ナル「ボア」戰爭當時英軍ハ本國ヨリ輸送セル軍馬乃至濠洲馬ノ馬姿雄大速度ニ富ミ體型又制御ニ便ナリシモ何レモ英純血ノ多量ヲ注人セラレタル馬匹ニシテ屯營地ニ在リテハ其能力ノ非凡ヲ窺ニ誇リタルニ反シ彼地ノ激烈ナル氣候ト戰場ノ固苦ニ會フヤ直チニ其元氣ト體力ト失ヒテ活動ノ餘力ヲ存セス「ドン」馬ノ購買補充ヲ行フニ至リテ始メテ愁眉ヲ開キタルハ「クリミヤ」戰爭

歐洲戰爭ヨリ得タル馬事上ノ教訓

ニ英軍將校ノ愛葡土馬ヲ捨テ好シテ「バルブ」馬ヲ購入乗御セルト同一ニシテ歐洲馬事界ハ已ニ英純血ノ多量注入ト豐養美食ノ馬ノ軍馬的價値ヲトスルニ足ルヘキ幾多ノ材料ヲ得タル事一再ニシテ止マサルモ長キ平和ハ常ニ使役者ヲシテ觀賞的能力ヲ尊重スルノ傾向ヲ齎シ各國何レモ此目的ニ無比ナル英純血及成可是ニ近キ馬匹ヲ得ヘク勉メシ結果自然粗食ニ耐ヘ簡易ノ管理ニ甘シ持久ニ富ミ敢テ軍馬トシテ能力ニ不足ナキモ誇張セル技能ヲ現ササルモノヲ疎シ持久力本位ノ種類ハ漸次衰頹シ若クハ強テ英血ノ配合ヲ受ケ又英血ノ注入ニ適スル地方ノ馬匹ニ對シテハ特ニ盛ニシテ大ニ觀賞的能力ノ進歩發達ヲ遂ケ大戦ニ參加セル各國軍ノ馬匹ハ輻重及重砲ニ使用セル重種ヲ除キ他ハ總テ英血ノ幾分ヲ混セサルモノ無キノ状態ニアリシカ活動後ノ實績ハ英血ヲ多量ニ混入シタルモノ換言スレハ良飼糧ヲ食ミ篤キ管理ノ下ニ成育セル平時ノ良馬ハ概シテ早勞シテ過去ノ歴史ヲ反覆セリ即チ英軍ノ「イングリッシュハンター」佛軍ノ血液量多キ「アングロノルマン」乃至「アングロアラブ」露軍ノ「オルローフ」ストブチン何レモ成績面白カラスシテ開戦前兎角ノ評ヲ耳ニセル「アングロアラブ」「半血」「バルブ」「キルギス」「ブルトン」各種反テ非凡ノ能力ヲ示シテ軍馬ノ蕃

殖上種々ノ反省ヲ與ヘタリ而シテ大障碍多キ歐洲ノ戰場迅速ナル機動ノ要求スル速度ノ迅速及携帶器具ノ増加ニ伴フ負擔量ノ増加ト近世ニ於ケル英血ノ異常ノ進歩ハ軍馬ノ改良上英血ノ注入ハ極メテ緊要ニシテ又缺ク可ラサルモ其多量注入ハ戰場ニ於ケル缺乏ニ對スル抗力ヲ減殺シテ軍馬的性能ノ大分ヲ失フヲ以テ其直接配合ヲ成可ク避ケテ間接ニ依ルヲ有利トスルノ經驗ヲ嘗メ最近ニ於ケル佛國軍馬獎勵會報ニ徵スルモ主トシテ其種ノ馬匹ニ賞與シ英國又輕輓馬ヲ「ベルシユロン」ニ依リ鈍化スルノ試ヲ爲シツツアリ而シテ蕃殖牝馬ノ素質極メテ劣等ニシテ養フニ良草無ク目途スル戰場ハ概シテ大ナル障碍ノ存在ヲ認メス且ツ騎兵ハ必ス遠大ノ行動ヲ豫期セサル可ラサルト共ニ短肢騎術ニ拙ナル吾人ノ軍馬蕃殖上ニ對シ以上ノ實驗ト教訓トハ如何ニ利用セラルヘキヤハ識者ニ依リ容易ニ判斷シ得ラルル所ナルヘシ次ニ歐洲ニ在リテハ各產地皆各特色ノ馬匹ヲ産シテ各隊ハ血統種類明瞭ナルノミカ多クノ部隊ハ衛戍地ト馬產地ノ關係上同一種類ノ馬匹ノ補充ヲ受クルヲ常トスル爲馬産界ハ容易ニ各馬ノ發達進歩ニ資スヘキ材料ヲ容易ニ獲得シアルモ過渡期ニアル我國馬産ノ状態ハ改良種畜ニ對シテスラ今尙ホ研究中ニアルモノ尠ナカラス之

カ判決資料ノ提供ハ吾人ノ任務ナルモ此種ノ調査兎角閑却セラレ當局ハ適切ナル材料ノ蒐集ニ苦シミアリト聞ク宜シク行軍ニ教練ニ將夕馬術ニ軍馬蕃殖上ニ關スル注意ヲ益々密ニシ能力アル隊馬ノ補充ヲ受クヘク研究努力スルハ此際大ニ注意ヲ喚起スヘキ要件ナリト信ス

二、育成管理ニ就テ

育成ハ數ヶ年ヲ要スル事業ニシテ戰役ヨリ得タル實驗ノ直チニ應用セラレタルモノアリトスルモ未タ其結果ニ依リ新事實ノ發見ヲ爲シ得ルノ時期ニ達セス且ツ良ク養ヒ良ク鍛練スルハ育成上ノ動ス可ラサル原則ナルモ能力ヲ發輝セル各國ノ馬種ニ就テ探究スルニ良好豊富ノ飼糧ヲ受ケテ鍛練ヲ缺キタルモノハ劣質寡量ノ飼糧ヲ受クルモ充分ナル鍛練ヲ加ヘタルモノヨリ軍馬能力ノ遙ニ劣ルノ實驗ハ外貌粗野ナルモ自然草地ニ放牧セラレ幼齡ヨリ農耕ニ使役セラレタル「ブルトン」種カ人工牧草地ニ飽食シテ成長セル「ノルマン」種ニ優リ何レノ方面ヨリモ悲惨ノ育成ヲ受ケタル「キルギス」乃至「バルブ」種カ歐洲各貴種ノ乘馬ヨリ優リタル成績ヲ現シタルニ依ルモ明ニシテ血種已ニ固定セル良種馬ニ於テハ之ヲ軍馬タラシムル場合或程度迄強テ「キリギス」人亞刺比亞人或ハ「コ

ザック」人ノ如キ所謂遊牧民的育成ノ實施ヲ必要トセリ尙ホ現代重種ニ原種無ク彼ノ偉大ノ體驅ハ全ク良好ナル飼養ノ結果ニ外ナラサル如ク馬ノ完全ナル驅幹ノ發達ハ完全ナル飼養ニ待ツ事花木ノ培養ト全ク選フ所ナシ故ニ我國馬産ノ如キ血種固定セス且ツ適當ノ能力ヲ現ハシ能ハサル體型ノ馬匹ニ在リテハ往々飼養ヲ第一ト爲ササル可ラストノ議論又一理ナシトセサルモ特ニ軍馬ノ育成ニ於テハ鍛練ノ貴重ナル事已ニ述フル所ニヨリ明ニシテ如何ナル馬種ナリト雖之ヲ疎ンスルハ蓋シ其策ヲ得タルモノニ非サルカ如シ

歐洲ノ厩舎ノ多クハ石造若クハ練瓦乃至「コンクリート」ニシテ「サラブレット」等豪奢用馬ノモノヲ除テハ通氣並ニ光線比較的良好ナラサル構造ノモノ多ク外人ハ又外觀ノ美ニ重キヲ置クコト吾人ノ想像以外ニシテ例ヘハ冬毛ノ發生ヲ嫌フ事夥クシク寒冷ノ候ニ至レハ馬體ニ毛布製ノ外被ヲ裝スルハ只ニ娛樂用馬匹ニ止ラス軍馬ニ於テモ之ヲ使用スルヲ常習トスル有様ニシテ其管理ノ戰場ノモノトノ逕庭甚クシク從テ外界ニ對スル抵抗性ヲ衰頽セシムル事多ク開戰ト同時ニ露軍ノ「コザック」及佛軍「スパイ」騎兵馬ヲ除ク歐洲正規ノ各隊馬ハ何レモ感冒、繫輝、食慾不振、消化不良等ノ患疾續發シテ持久力ヲ減殺シ之カ爲戰

勝ノ好機ヲ逸シタル事例ヘハ「マルヌ」ノ迫撃ニ於ケル騎兵集團ノ如キ類例ニ乏シカラス獨乙陸軍大臣ノ如キハ開戦久シカラスシテ野戰的軍馬ノ管理ニ關スル訓令ヲ全軍ニ布告スルニ至レリ此ノ如キヲ以テ各國共内地部隊ニ於ケル管理ハ從來ト著シク變化ヲ來シ日光浴ノ勵行代用飼料ノ慣馴彼等ノ所謂賊風の通風ノ實施等トナリ要スルニ野戰的管理即チ軍馬管理ナリトノ意見ニ一致スルニ至レリ然トモ一部之ニ就テ反對ノ意見モ亦絶無ナリトセス一般ニ抵抗性ノ缺乏換言スレハ管理ノ困難ナル爲成績面白カラサリシ「サラブレット」及「アンダロノルマン」種中在隊期間ノ長カリシ所謂古キ古馬ハ各馬種中最モ強健持久ニ富ミ非凡ノ能力ヲ現ハセルヲ以テ其成績最モ優秀ナリシヲ實例トシ論據ト爲スモノハ馬ハ成得ル限リ管理ヲ厚クシツツ鍛練ヲ加フレハ益々體力ヲ増シ抵抗カヲ増大シ固苦ニ耐ユヘキ素質ヲ獲得スルモノニシテ特ニ脆弱ナル馬匹ニアリテ然ル事體質虚弱ナル兒童ノ保育ト何等異ナル所ナシト云フニアリ又一理ナシトセス近時軍隊ニ於テ歐州戰爭ノ實驗ヨリ判斷シ馬ノ管理ヲ成可ク野戰ノ状態ニ近接セシメントシ曾テ使用シアリタル切藁混入ヲ廢シ或ハ手入ヲ粗略ニシ或ハ給水並ニ飼與回数ヲ減シツツアルノ試ミアルヤニ聞クモ素質

極メテ劣等管理ノ到底彼レニ比スヘクモアラサル我國隊馬ノ現況ニ在リテハ古サラブレット乃至「アングロノルマン」ノ例ニ依ルヲ反テ合理ナルモノノ如ク考ヘラル日露戰爭ニ於ケル吾人ノ實驗ハ決シテ歐州戰爭ニ於ケルト同一ナラスシテ平時ニ於ケル管理ノ厚キニ失スルノ缺點ヲ毫モ感知セサルノミカ寧ロ良好ナル管理ノ下ニ體力ノ充實アリタルモノノ常ニ強健ナリシハ汎ク人ノ知ル所ナレハナリ

三、馬術

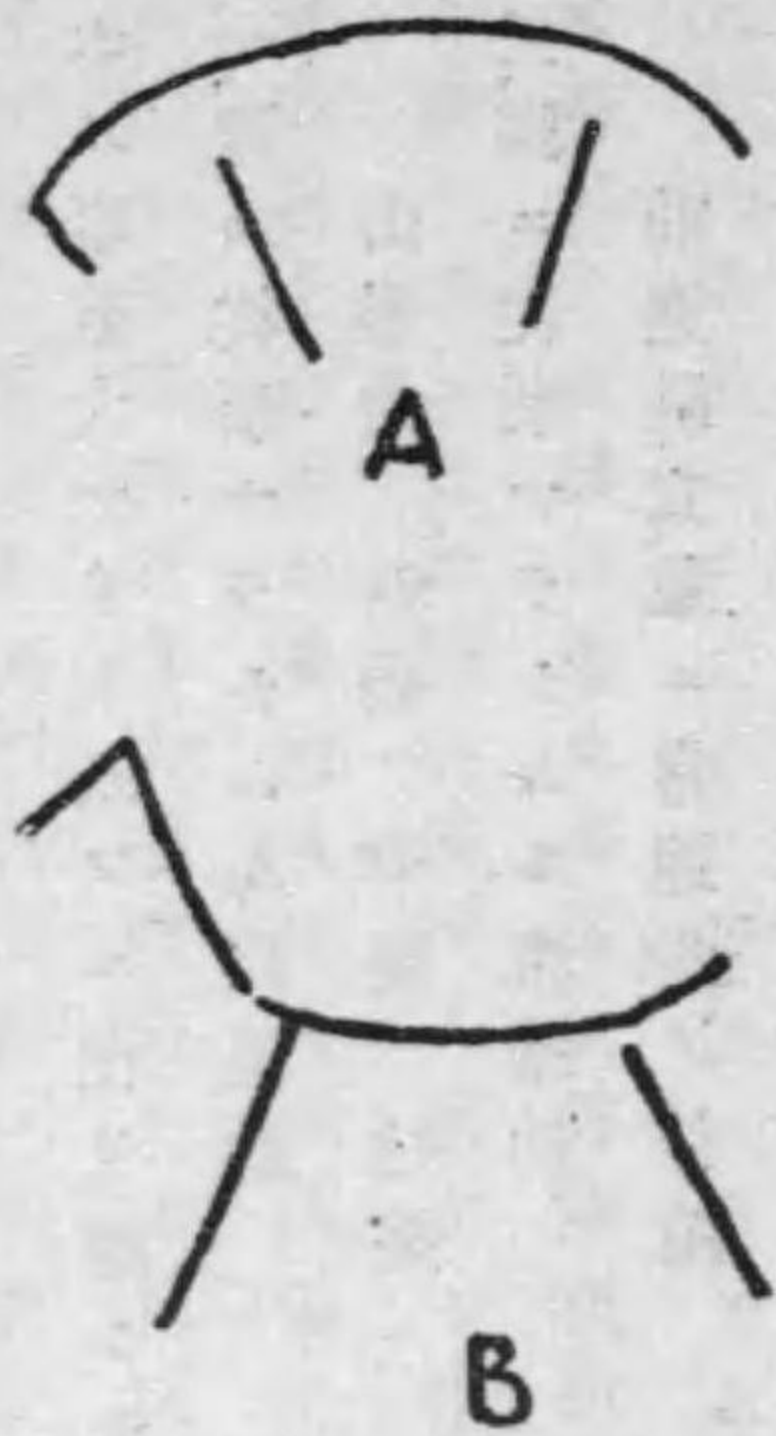
開戦數年前伊太利ヨリ主トシテ唱道セラレタル實用馬術ハ歐州馬術界ヲ漸次風靡スルノ概アリテ西班牙軍隊ハ已ニ之ヲ採用シ純粹馬術ニ依テ世界ニ冠タル佛國及十數年前「フイリス」氏ノ法式ニ改メテ日尙ホ淺キ露國ニ於テモ三年間ノ服役間ニ於テ戰鬥ノ用ニ供スヘキ良好ノ騎卒ヲ得ルニハ從來實施シ來リタル馬術法式ハ餘リニ高尚ニ失シ一旦緩急アルニ際シ速ニ良騎手ヲ作ルニ極メテ困難ナリト稱シテ軍人馬術家中伊太利馬術ニ「ヒント」ヲ得テ現代軍事ノ要求ニ適應スヘキ騎手並ニ馬匹ヲ最モ簡單ナル手段ニ依リ教育スヘキ方法ノ研究ヲ企ツルモノ續出シ大戰兩三年前佛國騎兵少佐「シヤンプサワン」氏ノ立案セル

歐州戰爭ヨリ得タル馬事上ノ教訓

モノ最モ適切ナリト認メラレ操典ヲ改正スルニハ至ラサリシモ各隊之ヲ實施研究シツツアルノ有様ナリシカ戰場ニ於ケル實績及補充部隊特ニ頻繁ナル補充教育ノ衝ニ當リシ野砲部隊ニ於テ其最モ實戰的ナルヲ確メ今ヤ佛國各乘馬隊ハ總テ之ヲ採用シ露國又千九百十七年四月ノ視察當時士官學校ニ於テ實施シアリタルモノ即チ以下述フル法式ナリ

一、御術ノ原則

軍用乘馬ハ迅速ナル步度ニテ行進シ之ヲ持續シ且ツ此步度ニ在リテ制御容易ナルヲ要ス故ニ軍馬ハ伸展シタル姿勢ニ於テ制御セサル可ラスト蓋シ步度ノ伸暢ハ低姿勢ニ於テ求ムヘキハ論ナク之カ持久ハ運歩ノ回數ヲ減シテ歩尺ノ増大ニヨリ同一地幅ヲ獲得スル爲步樣低伸スルヲ要スヘク從テ又低姿勢ナルヲ可トシ尙ホ御術上ヨリ見ルモ技術優秀ナラサル騎手ハ屈撓セサル姿勢ニ於ケル馬ノ反テ制御ニ便ナルニ在ルハ背推ノ構造上低姿勢ノ馬ハ韁ヲ操作スル時背部上方ニ彎曲シテ容易ニ後驅ハ前方ニ進出シ重量ヲ之ニ負擔シ前驅ヲ輕快ナラシムルモ(A圖)高キ姿勢ニ於ケルモノ韁ヲ操作セハ拙劣ナル騎手及普通調教ノ馬匹ハ高等馬術家及同用馬匹ニ於ケル如ク飛節ヲ屈撓スル事困難ニシ



テB圖ニ示ス如ク背部ヲ下方ニ壓迫灣曲セシムル爲反テ後驅ヲ高起シ四肢ヲ重心下ヨリ遠カラシムル爲前驅ノ輕快ヲ得ル能ハサルニ依ルモノニシテ又前驅ヲ輕快ナラシムル時頭頸ヲ低下スルハ自由飛越ノ蹈切り前急峻ナル坂路ノ下降及跳躍ノ場合ニ馬

ハ何レモ頸ヲ伸展低下スルニ依リテ觀ルモ其自然ナルハ容易ニ判斷スル事ヲ得ヘシ即チ軍馬ハ使役上伸展セル姿勢ヲ有利トシ且之ヲ御スルニ當リテモ屈撓セサルヲ便利トシ舊法式ニ依ル屈撓及前驅ノ起揚ヲ廢セントスルモノナリ

二、調教要領

馬體ヲ伸展シテ速度増進及其持久ニ便ナル平衡ヲ獲得シ運動ヲ命シテ扶助ニ對スル從順ト共ニ馬體ノ柔軟ヲ自得セシメツツ合セテ行軍力ヲ漸次ニ涵養シ並ニ障碍飛越ノ能力ヲ高上スルニアリテ之ヲ五歲馬及六歲馬ノ調教ニ分チ最初ヨリ大勒調教ヲ行フ五歲馬ノ調教ハ平衡獲得ヲ以テ主ナル目的トシ合セテ

歐洲戰爭ヨリ得タル馬事上ノ教訓

六歳馬扶助教育ノ基礎教育ニ爲シ又動員ノ關係上武器慣馴及隊列ノ壓迫ニ馴レシムルモノニシテ決シテ屈撓的作業ヲ施ス事ナク常ニ野外ニ於テ騎乗シ且ツ時々不齊地騎乗ヲ實施シ新馬ノ平衡自得ニ便ナラシム

本調教ニ於テ特ニ注意スヘキハ馬ヲシテ重量ヲ主トシテ肩ニ負擔スヘク即チ前軀ヲ低下セシムルニアルモノニシテ從來ノ法式ト全ク反對ノ結果ヲ求ムルニアリ新馬ニ前軀ノ起揚ヲ求ムルハ將來制御ニ當リ其必要ヲ認メサルノミナラス馬體構造上ノ自然ニ反スルモノニシテ舊新馬調教中故障ノ常ニ後肢ニ續發スルニ依リテモ其適當ナラサルヲ証明スルモノニシテ且ツ人爲的ナル結果常ニ馬匹ニ苦痛ヲ與ヘ種々抵抗ヲ誘發シテ扶助ニ對スル從順性ノ發達ニ害ヲ及ホス事至大ナリト云フニ在リ而シテ本調教ニ於テ實施スル諸運動左ノ如シ

一、韁ニ從順ナラシムル諸運動

山形乘 卷乘 半卷 蛇乘

二、脚ニ從順ナラシムル諸運動

前進駐立並ニ常速歩ノ伸縮

三、駢歩ノ出發

四、行軍豫習

五、障碍飛越

從來吾人ノ實驗ニ徵スルニ新馬調教中ノ損徵發生ハ主トシテ四肢ニシテ前後肢ニ於ケル其比ハ騎兵學校ノ調査ニ依ル時前肢一ニ對シ後肢五、五強ヲ示シ又卒業新馬ヲ行軍ニ使用スル時持久力ヲ減殺スヘキ疾病ハ主トシテ前肢ニ發生スルハ一般現象ナリ今之ヲ暫ク本法式ニ依リ研究スルニ其原因ハ調教中常ニ關係起揚ヲ求メテ高等馬術的ニ偏シ疲勞シテ馬ノ自然姿勢ニ復歸スル場合即チ使役ノ際ニ現ルヘキ姿勢ニ於ケル鍛練ニ缺陷アリト判斷ヲ下スニ難ラス將來吾人ノ探究スヘキ要件ナルヘシ

六歳馬ノ調教ハ主トシテ柔軟ヲ求メ且ツ體力ノ發達ヲ期スルモノニシテ其法屈撓作業ニ依ルニ非スシテ歩度ノ伸縮及方向變換輪線運動ニヨリ内方側及後軀全體ノ進出ヲ自然ニ求メテ扶助ニ對スル從順即チ輕快性ヲ得ルニアリ舊法式ノ屈撓作業ニ依ルモノハ飛節ヲ屈撓シテ關係起揚ヲ求ムル爲歩尺高揚短切シ且ツ生地ニ於テ伸展歩度ヲ探ルヤ馬體ノ低伸ハ常習的平衡ヲ破壞スル爲扶助ニ對スル從順性ヲ失ヒテ制御極メテ困難トナリ馬場内ニ於テ信地駢歩若ク

歐洲戰爭ヨリ得タル馬事上ノ教訓

ハ糸乗ヲ行ヒ得ル馬匹モ野外ノ伸暢セル歩度ニ於テ往々狂奔的トナルモ全ク野外馬即チ軍馬の平衡ニ慣馴シアラサル結果ニ依ルモノトシテ屈撓柔軟ノ手段ヲ廢止シ左ノ運動ヲ以テ其目的ヲ完成スルモノトス

一、内方側ノ進出ヲ得ル爲ノ運動

常速歩ノ輪乘

輪乗上ニ於ケル常速歩ノ短縮伸暢

輪線上ノ駈歩

二、後軀ノ進出ヲ得ル爲ノ運動

退却、諸歩度ノ伸暢短縮及駐立

輪線上ニ於ケル駈歩ノ伸暢及短縮

直線上ノ駈歩ノ伸暢短縮

三、方向變換ヲ容易ナラシムル爲ノ運動

手前變換スル事ナク行フ電光形騎乘

退却シツツ前後軀ノ轉移運動

四、行軍豫行

五、障碍飛越

以上述フル諸教課中行軍豫習ハ近時特ニ着意スル所ニシテ古馬編入後故障ノ續發ハ新馬調教間四肢ノ持久力の鍛練ノ足ラサルニアリ卒業後秩序的ノ誘引法ヲ行フハ不可能ナルヲ以テ強健持久ノ馬匹ヲ得ント欲セハ新馬調教ヨリ綿密ナル注意ヲ以テ行軍豫習ヲ勵行スルヲ要スト云フニアルモノノ如シ本邦歩兵ノ世界ニ冠タル行軍力ヲ有スルニ反シ吾人ノ馬匹ハ持久力速度ノ劣等ニ於テ他ニ比テ見ス蓋シ行軍力ハ吾國騎兵ノ一大缺點ナルヲ以テ以上ノ事實ハ大ニ吾人ノ參考トシ研究實施ヲ要スルモノナルヘク新馬ノ檢閲等ニ於テモ此種ノ着眼ハ尙一層密ナラシメサル可ラス

次ニ障碍飛越ニ於ケル騎手ノ姿勢ニ就テ一言スヘキニ千九百年前後ニ於ケル飛越記録ハ一米四〇ナリシモノ新飛越法實施以來急速ナル進歩ヲ遂ケ今日ニ於テハ二米五〇ヲ示シタル飛越ノ際上體ヲ前傾スル姿勢ハ操典ニ之ヲ明記セサルモ動カス可ラサル眞理トシテ今ヤ各國之ヲ實行シツツアリ然ルニ應々軍隊馬術ニアリテハ誤ナリト説ク人アルモ之誤解ニシテ小障碍ニアリテハ其必要ナキモ決シテ誤リニ非ス寧ロ正當ナルハ物理學的ニモ證明セララルルヲ茲ニ

斷言スルニ憚ラス

三、馬術教育

極メテ單純ナル方法ニヨリ行フヲ主眼トスルモノニシテ扶助ハ

- 一、步度ノ伸暢ヲ行フ爲ノ兩脚同時ノ使用
- 二、步度ノ減却及停止ヲ行フ爲ノ兩韁同時ノ使用
- 三、回轉方向變換ヲ行フ爲ノ押韁ノ操作

ヲ教ユルノミニシテ演習步度ハ主トシテ常歩及駈歩ヲ用ヒ速歩ハ行軍步度ニシテ戰鬪步度ニ非サルタメ重キヲ置カス且ツ常ニ輕速歩ヲ行ハシム又水勒教練ト大勒教練トヲ區分スル事ナク教育ノ初期韁ニ絶對ニ依倚ヲ必要トスル數日間水勒ヲ使用スルノミナラズ押韁ヲ了解スルニ至レハ成可ク速ニ大勒韁ノミヲ以テ演習セシメ後チ教育ハ主トシテ此保持法ニ依ル其理由ハ兩手ニ依ル韁ハ主トシテ口角ニ作用スルニ反シ低ク片手ニ保持シタル大勒韁ハ肩即チ重心ニ近ク作用シ効驗顯著ニシテ御法ニ便ナリト云フニアリ

是ヲ要スルニ馬匹ノ調教ハ已ニ述フル如ク機械的ニ非スシテ靈智的ナル爲諸種ノ運動ヲ實行セシムヘク困難ナル態勢ヲ騎手自ラ與フルノ必要ナク制御ハ

單ニ運動ノ指示ニ止ルモノナルヲ以テ扶助教育ハ極メテ簡單ニシテ複雑ナル扶助ヲ實施セシメ馬術技能ノ高上ニ勉ムル事ナク前記ノ扶助ヲ使用シテ新馬調教ニ於ケルト同一ノ運動ヲ行ハシメツツ其技術ノ練熟ヲ圖リ又馬道ノ調教ヲ進歩セシム

四、記述事項ノ要點

- 一、純血量多キ軍馬ハ能力優秀ナルモ戰場ノ管理ニ依リ持久力ヲ減殺スル事夥シク長期ノ行軍ニ適セサリシヲ以テ軍馬ノ蕃殖ニ當リテハ若干ノ土血ヲ混シテ野性ノ保持ニ勉ムルヲ要ス
- 二、軍馬ノ育成ニ善良ナル飼糧ハ極メテ緊要ナルモ鍛練ノ之ニ伴フニ非サレハ理想ノ發達ヲ遂ケサルハ勿論ニシテ且ツ飼糧充分ナラサル場合ニ在リテモ亦鍛練ハ缺ク可ラス
- 三、軍馬ノ管理ハ野戰的ナルヲ要スルモ一方又愛護シツツ鍛練ヲ怠ラサレハ同様ノ結果ヲ得ルノミナラス反テ有利ナル場合ナシトセス
- 四、軍用乘馬ハ低キ姿勢ヲ與フルヲ最モ有利トシ之ニ起揚姿勢ヲ要求スルハ其必要ヲ認メサルノミナラス反テ有害トシ馬術教育ハ純粹馬術的ニ行フ事ナ

歐洲戰争ヨリ得タル馬事上ノ教訓

馬術及馬事
ク通俗的ナルヲ有利トス

馬事及馬術終

大正十年三月二十七日印刷
大正十年五月十四日發行

定價金壹圓八拾錢

著者 遊佐幸平

發行者 大柴四郎

東京市神田區通新石町九番地

印刷者 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舍

東京市神田區美土代町二丁目一番地

發行所

東京市神田區
通新石町九番地

朝香屋書店

電話神田二二三番・振替東京二四三番

愛馬家の好侶伴

陸軍大將 一戸兵衛閣下題字
獸醫學博士 勝島仙之介先生題詩

英雄と馬

獸醫學士 佐藤清明先生著

全一冊
四六版四百五十頁
正價金壹圓五拾錢
送料金拾貳錢

本書ハ織田、豊臣以降七英雄ノ事績ヲ略述シ當時ニ於ケル馬産馬格馬政等ヲ詳述シタルモノナリ、著者ハ曾テ農商務省ニ在リテ公務ノ餘暇蒐集セラレタル幾多珍奇ノ材料及多年ノ蘊蓄ヲ傾倒シテ本書ニ收ム行交流麗諷刺ヲ加ヘ讀者ヲシテ飽クコトヲ知ラザラシム乞フ受讀ヲ玉ヘ

目 概 容 内

■第一編(一)織田信長 天下統一の英雄 信長と愛馬癖 信長の馬術 信長と加茂競馬
▲示威的の馬揃 ▲(二)豊臣秀吉 古今獨歩の大英雄 藤吉郎時代と馬 ▲一鞭急に赴く ▲
秀吉の馬術 ▲馬と武士 ▲馬格 ▲馬代 ▲馬匹身幹の大小 ▲輸入馬 ▲馬の筋切の慣行 ▲名馬 ▲
薩摩藩牧場の勃興 ▲馬術家及相馬家 ▲主要馬産地 ▲第二編(三)徳川家康 ▲三河武士と其
の馬 ▲家康の愛馬 ▲家康の馬術 ▲牧場 ▲馬格 ▲馬市及馬代 ▲馬醫 ▲馬具及馬具の輸出 ▲仙
台馬の名聲 ▲第三編(四)徳川家光 ▲隅田川の水馬 ▲家光と馬揃 ▲朝鮮人の曲馬を觀る ▲
高田の馬場を作る ▲農馬飼育の訓示 ▲馬代の制限 ▲馬市馬匹の輸出入 ▲第四編(五)徳川綱
吉 ▲御用馬の格を定む ▲拵馬の禁制 ▲馬の布令多し ▲愛馬と乗馬の奨励 ▲馬市 ▲乗馬法
▲馬政 ▲馬産地 ▲相馬書の出版 ▲第五編(六)徳川吉宗 ▲輸入洋馬並に蘭人ケイツル ▲將
軍工士の馬術 ▲馬匹の蕃殖 ▲馬量飼方 ▲乘馬法 ▲吉宗馬術奨励の一例 ▲仙台藩馬政一斑 ▲將
津輕藩馬政一斑 ▲第六編(七)松平定信 ▲定信の馬術 ▲遠乗の復興 ▲毛卷と毛色 ▲諏訪市
の開催 ▲上杉鷹山公と馬政班 ▲蕪津輕藩の馬政 ▲島津榮翁公と其馬政班 ▲馬の出所調 附
録 ▲江戸馬喰物語

318
453

終

